
ひとりぼっち

夏藍磨 (カラス)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒトリぼっち

【コード】

N3439BA

【作者名】

カラス
夏藍磨

【あらすじ】

生きていると、虚しくなる。

なんでだろ？

僕今、泣いてる…？

暖かく透明な雫が頬を伝う。

なんだろうな。

この胸のなかにある気持ちは…

この気持ちを僕は知っている。

『寂しい』だ。

そっか、僕は寂しいのか、だから、泣いているんだ。

はは、なんでだろう？

世界には、人がいっぱいいて、僕には友達もいる。

なのに、なんで？

寂しい。

テレビの音も、飼っている犬の鳴き声も、みんな遠い。

ああ、独りぼっち。

自分から、メールが届いていた。

件名は『死にたいです』

内容は、生きたいと書いてあった。

世界にどんなに人がいようと、どんなに友達がいようと、僕は独

りぼっち。

だって、僕は一人しかいないから、誰にもきつと分かってもらえない。

僕だって僕を知らない。わからない。

だから、僕は今独りぼっち。

自分の金切り声が頭に響く。

悔しい。虚しい。辛い。寂しい。苦しい。羨ましい。

みんなが少しだけ憎い。

みんながとても羨ましい。

自分の力の弱さが悔しい。

自分のココロの弱さが虚しい。

みんなに憎しみを抱いてしまうことが辛い。

胸が苦しい。

なんで、どうして、どうしたら。

わからない。

ああ、僕は独りぼっち。

また、涙が頬を伝う。

まだ、涙が頬を伝う。

(後書き)

読んでいただきありがとうございます。

ご意見ご感想ご指摘、誤字脱語報告や、ちょっとした一言などいただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3439ba/>

ヒトリぼっち

2012年1月8日23時53分発行